

聖霊が教えてくださる

ヨハネによる福音書 14 : 23 - 29



司祭 ヨハネ 井田 泉

復活節第6主日
2025年5月25日

京都聖三一教会にて

復活節が進み、今週の木曜日は主イエスの昇天日。そして2週間後は聖霊降臨日を迎えます。それで今日の福音書には、主イエスが弟子たちに対して聖霊の約束をされた箇所が選ばれていました。

「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」ヨハネによる福音書 14:26

これは主イエスが最後の食卓で語られた言葉です。弟子たちはイエスの身にいよいよ危険が迫っているのを感じて動揺しています。イエスが自分たちから去って行かれるのを感じて不安にかられています。この時に、この弟子たちに、イエスは聖霊の約束をされたのです。

「聖霊」と聞いて、あまりなじみがないと感じられる方もおられるかもしれません。けれども、イエスはこれを言わば遺言として言われたのですから、大切に聞きましょう。

「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が」とイエスは言われます。聖霊とは、父なる神さまがわたしたちに遣わしてくださるものです。別の箇所では「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者」（ヨハネ 15:26）とも言われます。細かい議論はともかく、

聖霊は、わたしたちが考えたり作り出したり、また自分の力で獲得するものではなく、神さまから、またイエスさまからわたしたちに送られるものです。

それでは聖霊とはどのようなものか。もっと正確に言えば、どのような方か。

今の聖書では「弁護者」となっていますが、以前の口語訳、その前の文語訳でも、「助け主」と訳されていました。わたしたちを助けてくださる方なのです。困難を抱えて行き詰まる時、人生の道に迷う時、神さまがわからなくて苦しむ時、わたしたちを助けてくださる方です。

それが今の聖書ではなぜ「**弁護者**」と訳されるのでしょうか。誰を何から弁護するのでしょうか。もし誰かが——それは他の人であり、あるいは自分の心であり、また悪魔かもしれない——その誰かがわたしを責めて、「お前のような罪人は、お前のような不信仰な者は救われない。お前を待っているのは死と滅びであり、永遠の責め苦だ」と断罪するとします。その時、聖霊はわたしの傍らにあってわたしの味方をしてくださる。「そうではない。この人は神さまの子だ。イエスに愛されている大切な者だ。永遠の命を受ける者だ」と、聖霊はわたしに味方して、断乎としてわたしを守ってくださる。だから「**弁護者**」なのです。

このような弁護士、聖霊があなたがたには絶対に必要だから、その方を送る。だから祈って待っていなさい、とイエスは言われたのでした。

続けてイエスは聖霊についてこう言われました

「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」

正直に言うと、聖書について、信仰の中身について、わたしたちには分からない、理解できないことが多い。しかし聖霊はそれを分からせてくださる、というのです。

もう 40 年以上も前のことです。わたしは司祭になったばかりで、ある方の洗礼準備をしていました。その方はずっと前から毎週日曜学校の先生をしてきていて、とても誠実な方でした。その方が言うのです。「神さまは分かる。けれどもなぜイエスさまが必要なのがよく分からない」。それから 2 か月か 3 か月たってその方が「イエスさまが必要であることが分かった」と晴れ晴れした顔で言いました。どのようにして分かったのか、その間どのような対話をしたのかは覚えていません。けれども「イエスさまが分かった！」というのはその方にとっても、わたしにとっても、大きな喜びでした。これは「聖霊が教えてくださった」ということだと思います。

イエスが語られた言葉。ことに最後の晩餐でイエスが語られたことを、弟子たちは一生懸命聞いたと思います。とても大事なことが言われていると感じつつも、よく分からなかった。それが不安でした。でも今はそれでよいのです。イエスは言われます。

「聖霊が、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」。

イエスがあの時、あのように言われたのはそういうことだったのか！、とはっきりわかる時が来る。聖霊がそれを思い起こさせてくださる。聖霊がわたしたちの心の目と耳を開いて、イエスの言葉をまざまざとよみがえらせてくださるのです。

このように聖霊の約束をしながら、イエスは弟子たちの抱えている不安、恐れをよく知っておられました。それだからこう言われます。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」14:27

ここはギリシア語原文を直訳するとこんなふうです。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和をくあなたがたに>与える。この世が与えるような仕方ではなく、<わたしがあなたがたに与えるのだ>。」

< >が囲んだ部分が訳されていない。原文はイエスの愛と

決意を、よりはっきりと伝えています。

イエスは「わたしの平和を与える」と言われました。イエスが持つておられる平和。イエスのうちにあつてイエスを満たしている平和。神の愛がもたらす平和です。それをあなたがたに与える、と言われます。

けれどもイエスは、すでにすべてを悟ってしまって、いつも「不動心」のようなものを持つておられた、というのではありません。イエスは人々の打ちひしがれているのを見て、はらわたが圧迫されるほど苦しまりました。エルサレム神殿を支配している不正と貪欲に対して憤りを発せられました。愛するラザロの墓で涙されました。

しかも、ご自身の死が近づいたことをはっきり知られた時、「今、わたしは心騒ぐ」（ヨハネ 12:27）と呻かれました。その方が今、「心を騒がせるな」と言われるのです。不安と葛藤、動揺を知つておられる方が、わたしたちの不安と葛藤、動揺を知りつつそれを静めてくださるのです。

ご自身、苦しみ動揺されたイエスが、神との交わりの中で深い平安を得られ、その平和を、「わたしの平和を与える」と言われます。

話を聖霊に戻しましょう。今、イエスは弟子たちの思いを将

来の希望に向けさせられます。根拠のない気休めではなく、近い将来、確実に弟子たちに与えられる不思議な命、力、助け主、弁護者なる聖霊——それを送るからそれを待っていないさい。

今日わたしたちは聖霊の約束を聞きました。それを忘れず、わたしたちもそれを求めて祈りたい。聖霊を求める祈りを一緒に献げたいと思います。

聖霊よ、おいでください。

聖霊よ、あなたは風、神の息吹。

わたしたちに命の息吹を与えてください。

聖霊よ、あなたは火、燃える炎。

わたしたちの心を清め、愛によって燃やしてください。

聖霊よ、あなたは光。

わたしたちの闇を照らしてください。

聖霊よ、あなたは命。

わたしたちに命を与えてください。

聖霊よ、あなたは愛。

あなたの愛がわたしたちを慰め、励まし、力づけてください。

聖霊よ、あなたは力。

あなたの力によって悪しき力を滅ぼし、み国を来たらせてください。

聖霊よ、あなたは導き手。

わたしたちを教えて、主イエス・キリストをはっきりと
知り、確信させてください。

聖霊よ、あなたは弁護者。

わたしたちを責める者から守ってください。

聖霊よ、あなたは執^とり成^なし主、

わたしたちのために祈ってください。

聖霊よ、おいでください。

わたしたちに臨んでください。わたしたちに満ちてくだ
さい。わたしたちを新しくしてください。

聖霊よ、あなたはわたしたちのうちに宿り、

わたしたちとともに、わたしたちをとおして働いてくだ
さいます。アーメン